

日本工業新聞

アンジェスMGなど30社参加

大学発バイオV.Bのパワー結集

大学の研究者らが医療・バイオテクノロジ分野の知的財産を活用して創設する大学発バイオベンチャー(V.B)の業界団体が近く誕生することが二日、明らかになった。水島裕一(早稲田バイオベンチャー協会)会長、新マリオン(医療大学前教授)や田岡、オスカー(エクスプレス教授)ら名古屋大学教授らが中心となり、大学発バイオV.Bの団体「大学発バイオベンチャー連合協会」(仮称)を五月にも設立する。(以下に関係記事)

5月にも業界団体

大学発バイオV.Bによる業界団体の設立は初めてで、協議会は、資金調達や特許の取得・移転などベンチャー設立・運営にかかわるノウハウの共有化を図るほか、必要に応じて規制緩和策などについて政府に働きかけていく。

協議会の詳細は検討中で、アンジェスMGやトランスウェニックなどの大学発バイオV.Bをはじめ、製薬会社や弁護士、T.L.O.(技術移転機関)など三十社近くの関係団体・企業が参加する見通し。事務局は東京都港区のL.T.Tバイオフォーラム内に置き、初代会長には水島氏が就任する方向で検討されている。

勢本庄・筑波大学教授らが行った調査によると、政府系研究施設が設立したものの数を数えている。

会長に水島・L.T.Tバイオフォーラム会長 運営ノウハウ共有

のを含む大学発V.Bは二〇〇二年八月末現在で四百五十三社に達する。しかし、医療・バイオ分野を含め大学発V.Bによる業界団体が設立されたケースはこれまでになく、情報共有の場となる組織づくりが課題となっている。

アンジェスMGは第一回日本バイオベンチャー大賞(主催・日本工業新聞社)でグランプリ、トランスウェニックは同大賞で文部科学大臣賞を、L.T.Tバイオフォーラム(旧エルティティ研究所)は第二回の同大賞で日本工業新聞創刊七十周年特別賞をそれぞれ受賞している。